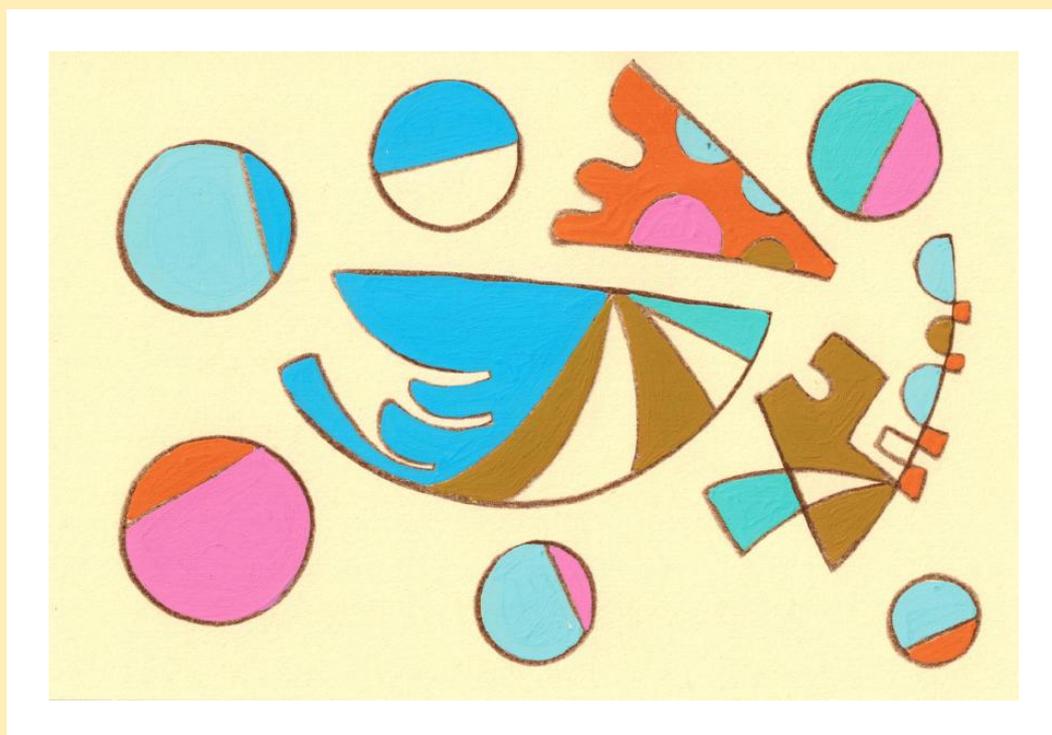


めんたるねっと

VOL. 14-2

No. **54**

地域の取り組み	高校内交流相談カフェで高校生と出会い・つながる	2
就労の現場から	私と障がい者雇用／企業の方へのメッセージ	4
被災地より	被災地での SST(2)／事例を通じて	6
YMSNの活動	トライ／ジョブコーチ	8
	中学高校生の放課後支援 Irodori／バザーレポート	9
	かながわプレジョブスクール／レポート	9
	予定・報告	10



高校内交流相談カフェで高校生と出会い・つながる

～横浜総合高校「ようこそカフェ」の取り組み～

公益財団法人よこはまユース 事業課 尾崎万里奈

横浜総合高校「ようこそカフェ」とは

横浜市立横浜総合高校で2016年10月に始まった「ようこそカフェ」は、ほぼ毎週水曜日のお昼12時から夕方17時30分の間、高校内のフリースペースで無料の飲み物やお菓子を提供するカフェをオープンすることで、生徒が気軽に立ち寄れる交流相談の場づくりに取り組んでおり、県立のクリエイティブ・スクールや他の定時制高校での高校内居場所カフェがモデルになっています。

ようこそカフェでは、大学生や社会人、若者支援団体のスタッフが「カフェの店員」となり、飲食しながらの何気ないおしゃべりや交流の中で、生徒の話にじっくりと耳を傾け、時に相談に乗りながら、生徒が抱える悩みや課題を受け止め、解決に向けて支援します。

週1回のカフェには、毎回約200人の生徒が立ち寄ってくれて、オープン直後や授業の前後は満席になることもしばしば。一人でゆっくり過ごしたいという生徒からの要望もあり、最近はこちらのカウンター席も用意しています。

はじめは飲み物やお菓子を目当てにカフェを訪れた生徒たちも、声をかけてきたスタッフと一言、ふた言と言葉を交わし、カフェで過ごす時間が積み重なるにつれ、少しずつ、自分のことや学校生活、悩みや心配事について話すようになり、気がつけば毎回カフェに顔を出してくれるようになった生徒もいます。

運営は、NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)、NPO法人横浜メンタルサービスネットワーク、公益財団法人よこはまユースの3団体がそれぞれの専門分野やつながりを活かして取り組んでおり、横浜市立大学の高橋寛人教授が事業全般へのアドバイザーとして運営に関わっています。



【ようこそカフェの様子】

横浜総合高校の特色とカフェの役割

横浜市南区の弘明寺商店街のすぐ近くにある横浜総合高校は、3部制・単位制・総合学科の3つの特色をもった定時制高校で、平成29年度の在籍生徒数は1100人を超える大規模校です。中退や進路未定で卒業する生徒の割合は、他の定時制高校と同様に横浜総合高校でも課題となっており、背景には生徒が置かれている厳しい経済状況や不安定な家庭環境があると考えられます。また、クラス単位で学習を進めていく学年制普通科の高校と比べると、生徒と教員の接点は限られており、生徒ひとり一人の個別の背景や状況を把握し、適切な支援を行うことは学校内部の人材だけでは難しいことも課題のひとつでした。

こうした背景から、困難な状況にある生徒が支援につながり、少しでも安定した形で高校卒業から次のステップに向かっていける環境を整えるために、生徒の課題やニーズを広く拾い上げ、必要に応じて個別の相談や外部の支援機関につなげる場づくりを目指して、高校内交流相談カフェ＝「ようこそカフェ」はスタートしました。

ようこそカフェの1年間から見えてきたこと

スタートから約1年が経ち、生徒や教職員にとっても「水曜日はようこそカフェ」が定着しつつあります。カフェの準備や片付けを毎回手伝ってくれる生徒がいたり、生徒やスタッフの輪の中に先生の姿もあつたりと、少しずつ高校の日常にカフェが溶け込んできているように感じています。

そんなカフェでの生徒との出会いや関わりを通して感じるのは、彼らは私たちが考えている以上に、「人と関わり、交流する場」を求めており、なにより「自分の話を親身になって聞いてくれる人」を求めている、ということです。

中には、水曜日はアルバイトを入れずオープンからクローズ間際までカフェで過ごすという生徒もいて、気の合うスタッフと長い時間話し込んでいる様子からは、「とにかく話を聞いてほしい」という気持ちが強く伝わってきます。



【話し込む生徒とスタッフ】

そして、家族や友人関係のこと、勉強、進路、部活のこと、アルバイトのこと、最近の出来事、好きなアイドルや漫画・ゲームのことなど色々な話をしている途中で、何気なく切り出されるのが、いま悩んでいることや困っていること、不安に感じていることであり、実は本当に聞いてほしかったことであつたりします。

こうして何気なく話される悩みや相談のほとんどは、誰かに話を聞いてもらうことで気持ちや考えが整理され、自分自身の力で解決に向かっていけるものがほとんどですが、中には抱えている課題が深刻で自己解決が難しいと感じられるケースもあります。

例えば、母親の再婚相手である義父との折り合いが悪く、家には居場所がないため、深夜まで繁華街や公園で時間をつぶしている女子生徒や、精神疾患を抱え

る親との関係が悪化し、家出したまま通学している生徒、経済的な理由から希望の進路を諦めざるをえず、将来が見えなくなってしまった生徒など、特にひとり親やステップファミリーなど家庭環境が不安定な場合、家族というセーフティネットが機能しにくいことから課題が深刻化してしまうことが多いです。

また、小中学校時代にいじめや不登校を経験したと話してくれる生徒も少なからずいます。その経験から自信や自己肯定感が持てず、人と関わることやコミュニケーションに強い苦手意識を持っていた生徒が、カフェでスタッフや他の生徒と交流する経験を通じて、知らない人とも話せるようになり、自分から新しいことにチャレンジできるようになっていく様子を見ると、「人と話すこと」、「話を聞いてくれる人がいること」は、当たり前のように当たり前ではなく、高校生年代の若者の自立を支えていく上で、とても大きな力を持っているのではないかと感じます。

特別ではない、当たり前のことを目指して

もちろん、たった週1回のカフェでできることには限りがあります。「もっと静かな雰囲気がいい」、「カフェはにぎやかすぎて相談できない」といった声もあり、生徒の相談ニーズをより細やかに拾い上げていくためには、まだまだ工夫が必要です。また、カフェでのおしゃべりから生徒の悩みや課題を引き出すことができるのは、1年間という時間の中で生徒とスタッフがじっくりと信頼関係を築いてきた結果であり、人の入れ替わりでつながりが途切れてしまう可能性もあります。「来週また話そうね」と言ったきり、その生徒と会えなくなってしまうこともあります。「あの時、もっとこうすれば良かった」と後悔することも少なくありません。

しかし、私たちが「ようこそカフェ」で出会った生徒にとって、自分のもやもやした気持ちや悩みや心配事をカフェのスタッフという身近な大人に話した経験が、社会に出て仕事や人間関係につまずいた時に、「誰かに相談してみようかな…」というアイデアを思いつかせるかもしれません。普段の生活の中でも、困ったことや悩みがある時に、家族や学校の先生、近所の顔見知りの人やどこかの相談窓口の人に「相談してみよう」と思えるようになること、「誰かに相談してみる」ということが「当たり前」になることを目指して、この取り組みを継続していきたいと思っています。

私と障がい者雇用

～企業の方への講演会でのメッセージ…～

間瀬 敦史

皆さん、こんにちは。私は今、100円ショップ「キャン・ドウ」で準社員として障がい者雇用で就労継続しています。間瀬と言います。よろしくお願ひいたします。

今回は私の障がい者雇用をとおして経験したお話しをさせていただきます。

今の職場で4年程、就労を続けているのですが、雇用が決まったきっかけからお話しをさせていただきます。まず、障がい者雇用での就労に取り組む以前の出来事も合わせて、お話しをする必要が有ります。

私は15歳の時に病気を発症して3年間の引きこもりを経験しています。その期間にかかりつけの先生と出会って病気の診断と処方をして頂きました。そこから、いい薬が見つかり、家族の協力もあって早い段階で社会復帰の準備をしていくことが出来ました。

20歳の時に福祉関係の専門学校を出て資格を取りクローズという方法で病気を隠して仕事を探しました。

21歳の時に非常勤介護職で1年と少し働いていました。初めての就労だった為に、慣れないことや、なじめないことも多く有りました。クローズである為、もちろん病気への理解は有りません。不安な気持ちから薬を多用して調子を崩してしまうことも有りました。契約満了で以前の職場は退社することになります。

23歳の時、2年程ハローワークに通い始めてトライという就労支援の制度を知りました。基本的なパソコンの知識を習得したり、再就職に向けてビジネスマナーを学んだり実習も体験させて頂きました。その時にトライをやっていた横浜メンタルサービスネットワークさんと出会うことになります。

そこで、オープンという方法で病気の事を伝えて仕事をする選択肢がある事を知りました。

ここから本題になっていくのですが、25歳の時、トライを卒業したあとにメンタルネットさんから連絡があってハローワークにあったキャン・ドウの準社員の求人を勧められて面接を行っていくことになりました。それが、今の職場のことになります。

面接は本社で私とジョブコーチの吉成さんと人事課の方2名で計4名で行いました。

そのあとに店舗が決まって、その店舗で私と吉成さんと人事課の方1名と店長と4名で打ち合わせをしました。

それが年末だったのですが、1カ月弱の実習期間から3カ月間の研修期間を経て正規雇用を考えていく方向で話がまとまりました。

12月いっぱい実習を行っていくことが決まり、3週から4週くらいかけて1週間ずつで4時間労働の週、5時間労働の週、6時間労働の週と取り組んでいきました。

6時間労働についてはウチの就業規則に準社員の条件として週に30時間以上、働くというルールがあったので、その為に週5日、基本6時間で30時間以上、働いて週休2日という提案がありました。

就業内容としては、従業員同士で顔なじみになれるようにバックヤードでの作業を中心に行いました。カゴ拭きや棚の備品を整理したり、ゴミ捨てなどを繰り返して行いました。

年明けの1月からは3カ月の研修を行って行きました。26歳の時です。内容としては、バックヤードや売り場の清掃、検品という商品が入荷したら誤りがないか確認をしていく作業とお客様対応を少し行いました。研修期間を終えて再び自身と吉成さんと店長や人事課の方と相談して3月から正規雇用に入っていきました。

就業内容としては、今までの作業に品出し、商品の注文などが加わり、分からないことは職場の皆さんに聞いて対応をしていきました。雇用が続き職場にも慣れて来た時に、病気を言い訳にしたくなかったので自分からお願いしてやらせてもらった作業もありました。

電話対応、レジ業務、お客様注文など率先しました。人と接する業務なので本来はやらなくても良い作業です。

今までに、どんな作業が出来るようになったかを整理してお話します。

バックヤードや売り場の清掃、ゴミ捨て、商品の検品、検収という伝票をパソコンで処理する作業、商品の注文、お客様の注文、シフトで言うと朝番、中番、夜番なども経験しました。開店準備や閉店業務なども覚えました。

仕事に悩んでいた時に吉成さんにも相談して最終的には自分で答えを見つけてた時があったのですが、愚痴があるなら、まず皆さんと同じくらい一人前に仕事出来る様になりたいと考えていました。なので出来る限りの仕事を覚えてから今後のことは考えたいと模索した時もありました。

仕事をしていくうえで起きたトラブルについて話します。

売り場でのお客様の対応について、最初の頃はお客様に聞かれたことが分からなくて代わりに対応をお願いした先輩に上手く引き継ぎが出来なくて先輩がお客様に注意をされてしまったことがありました。

また、電話対応も始めは上手くいなくて電話を受けて来店されたお客様の希望の商品が用意できていなくて別の先輩が注意をされたこともありました。ゴミ捨て場でも、母店の入荷トラックと回収業者が重なったところに巻き込まれて回収業者の人に怒鳴られてしまったこともありました。

お客様の注文の取り置き数を、間違えたり注文する個数を間違えたりしたこともありました。レジ業務を始めた頃は領収書や返品・交換の対応、お釣りの合計を間違えたりして上手く出来なかったのが悔しい思いもしました。

何か問題が起きた時は職場の皆さんが対応を一緒に考えて助言をしてくれました。

仕事に慣れて来て自信がついてきた2年目の時から通信の学校にも通い始めました。

今は三年次で順調にいけば来年の春に最短で卒業を目指しています。

職場の皆さんが人手不足で悩んでいる時に率先してシフトを交代していたので、学校の為に休みが取りやすい環境を作ることが出来ました。レポートの締め切りがある時は午前中お休み貰って午後から出勤したり、仕事を早めに上がらせてもらって学校に行くこともありました。早めに有給を申請して、なんとか両立していく場面もありました。これからも、自分がどうなっていきたいのかをよく考えて仕事や学業に取り組んでいきたいと日々試行錯誤しています。以上で「私と障がい者雇用」の話を終わります。



被災地での SST その2

～事例を通じて～

みやぎ心のケアセンター気仙沼地域センター 片柳光昭

前回の報告では、震災から7年目となった被災地の状況を、対人関係の視点から取り上げた。そして、相談支援の中で実際に SST を用いて、家族関係、友人関係あるいは職場での対人関係の改善を試みるが増えてきている現状を報告した。現在の中長期の時期において震災は、間接的に、そして様々な形となって被災地の住民の生活に影響を及ぼしている。

今回は、当職が支援している事例の一例をお伝えする。尚、事例は個人が特定されないように一部を加工あるいは変更していることを予めお断り申し上げます。

事例1 「しつこすぎないコミュニケーション」に取り組んだ中学生との SST

中学校の養護教諭からの相談。中学3年生の男子生徒。最近、クラスの中や友人に対して暴言や、横暴な態度が見られるようになり、トラブルが多くなっているとのこと。暴力はなく、登校状況も良好で欠席はない。学力は中の中。

この学校では、震災直後から校庭の一面に仮設住宅が建設され、今なおその状態が続いていることから、フラストレーションがたまっているのはこの生徒に限った事ではないが、心配なので、学校以外の相談窓口にもつないでおきたいとのことから、定期的に面談を開始。

男子生徒は、当初恥ずかしそうにして、当職からの問いかけにも、はい、いいえ程度の返答だったが、徐々に慣れていき、少しずつ学校生活での様子も話し始めた。そのなかで「僕はコミュニケーションが下手。みんなから、『しつこい』『やりすぎ』と言われる。そう言われると、ちょっと強めに返してしまっ…」と話した。それを機に、当職から「そうしたら、そういうことが無くなるようなコミュニケーションの勉強をしてみようか」と提案したところ、本人は「お願いします」と返答。以降、面談では、その時に起こっている友人関係の課題を取り上げ、スキルの獲得を試みた。

面談では、本人は「仲良くなりたい子がいるけど、しつこくならないで、話しかけられるにはどうしたらいいのかわかるか」や、「今度、委員会の会議があって、司会をすることになった。上手に司会をしたいけど、しつこくならない司会をするには、どうしたらいいか」、また「休憩中、どうしても一人になりなくて、気持ちを抑えられずに無理やり友人に話しかけたら、『しつこい!』って言われた。一人で過ごすことも覚えたい。でも一人でどうやって過ごしたらいいか、分からない」など、学校生活での困りごと、上手になりたいことを当職に質問しながら、進むようになった。

当職は、「そう言う時はね…」と、それらの解決につながるようなスキルを提示し、「僕が最初にやってみるから、みていてね」とモデルを見せ、更に「じゃあ、僕を実際の相手だと思って、伝えてみようか」と練習をしてスキル獲得を試みたり、課題に応じて問題解決技能訓練を用いたりして解決を試みている。

このような形で面談を継続し、学校からは、以前見られた友人との大きなトラブルはなく、落ち着きつつある様子であると伝えられている。

事例2 引きこもりの娘を抱える母親への SST

40歳代、女性。中学3年生の娘との二人暮らし。娘は、夏休み前までは問題なく登校出来ていたが、それまで所属していた部活の先生とトラブルがあり、それをきっかけに2学期に入ってから一切登校出来なくなった。娘にどう接したら良いか不安になった母親が学校に相談し、当センターを紹介された。

トラブルの原因は、震災の影響で家計が苦しく、部活の遠征等に行けない状況であることを娘自ら部活の先生に相談したが、先生からは「みんなそうだから」と理解してもらえなかったことが相当ショックで、そこから不登校が始まったとのこと。

学校に登校しなくなって以降、家でも話すことがなく、また母親が話しかけても、首を縦横に振る程度と

のこと。食事や睡眠はとれており、LINE 等を使って、友人ともやり取りはしている様子はある。母親は、「問い詰めたくはなし、無理に学校に行けと言ったところで行かないのも分かっている。だけど、そうなる何と何を話したらいいか、分からなくなる」と涙ながらに訴えた。

ある回の面談時、「もう、あの子の声をしばらく聞いてないんです。時々、あの子、何か話したそうにしていることがあるんですが、でも、『話したいことあるんでしょ?』って聞くと、うつむいてしまう。なんて言ったらいいのか…」と話し、「あの子の声、聞きたいな」と呟いた。

そこで当職は、「そのお母さんの気持ちを伝えてみてはどうでしょうか。例えば、こんな風に。『お母さんね、あなたの声を聴きたい。聞けると、とっても嬉しいな。』って」と伝えた。母親は「そんなこと言ったことないです」と照れながらも、「…そうですね、そういう言葉をあの子は待っているのかもしれませんがね。それに、私も伝えたい」と涙を流しながら答えた。そして、その場で当職を娘役として、母親が実際に伝えるための練習を行った。

その次の面談時、母親は「伝えてみました」と話した。その時の娘の様子を尋ねると、笑いながら「私、泣いてしまって、泣いてしまって。娘がどんな様子だったか分からないです」と。ただ、「言えてよかった」とのこと。娘の様子はその日、その日で反応があったり乏しかったりとあるようだが、面談では、その都度、娘に伝えたいことが上手く伝わるように練習に取り組んでいる。

例3 夫との関係性の改善を試みた SST

40歳代、女性。夫からの暴力的な言動、行動があり、相談したいとのことで当センターに来所。結婚して約20年だが、震災後、夫は職を失い、その後再就職したものの、それまでの職種と全く関係のない仕事に就かざるを得なくなった。以前に比べ大きく給料も下がり、その頃から、夫の自分に対する態度がきつくなった、とのこと。夫がそのような態度になるのも仕方がないとこれまでは我慢してきたが、最近、夫のそのような態度が始まると、身体が震えたり、息苦しくなったりするなどの症状が時々出てきてしまうと話す。だが、DV相談や、地元の医療機関には、誰に見られているかわからないので、絶対に行きたくない。できれば、夫

との関係を少しでも良い方向に変えていきたい、とのこと。

当職は、夫の行動がこれ以上エスカレートするようなことがあった場合は、DV相談等の窓口につなぐことを本人と確認した上で、当面は、本人に意思を尊重した形で、本人の心理的負担の軽減を目的に継続的な面談を行うこととし、本人もそれを希望した。

面談を継続する中で、本人の希望は、①これまでは夫が言うことに一つも逆らうことなくここまで来ているが、自分の考えや意見も伝えてみたいこと ②ただどのように言ったらいいか言い方が思い出せないこと ③我慢しっぱなしの状態を変えていきたいこと一が明らかになっていった。

ある時の面談で、本人は「昨日も些細なことで、夫から怒鳴られた。いつもだったら、『はい、はい』と聞いていたが、昨日は自分の意見も言いたくなった。でも、なんて言ったらいいか思い浮かばなくて…。最初の一言が出ればあとは言える気がする」と話した。そこで、当職と本人とで一緒に『最初の一言』を出るだけ挙げていき、口に出しながら吟味した。例えば、『お父さん、話の途中でごめんね。』はどうでしょうか?とか、「それなら、『あの、私もしゃべっていい?』はどうですかね」といった具合である。

そして次の面談では、本人は「ついに、意見を言ってみました!」と嬉しそうに話し始めた。本人の話では、どうやら、また些細なことから夫が文句や不満を次々と語る場面があったそうなのだ。その時のことを、「私、そこで『ちょっといい?お父さんさあ、お父さんの言いたいこと分かったよ。私も言っている?』って。ついに言えたんです。そして、私も自分の意見をバーッと言えたんです」と笑顔で話した。当職はその時のご主人の様子を尋ねると、『『なんだ!口ごたえするのか?』って、怒って部屋に行きましたよ』と言い、次のように続けた。「ですけど、いいんです。私が意見を言わなきゃ言わないで、『聞いてんのか!』って結局部屋に行って終わるのがこれまでだったので。どうせ同じなら、自分の意見を言いたいじゃないですか。それが出来たから、言えた一つ、嬉しくて」とすっきりした表情で感想を述べていた。

その後も継続的に面談し、夫との関係の変化に向けて取り組み続けている。

トライ



今年度からトライの担当をしています。7月生が一人も欠けることなく7人全員9月末に卒業しました。3カ月通して一緒に過ごすのは初めてでしたが、皆さんの意識が就職に向けて変化していくのを感じられる密度の濃い時間でした。

メンタルネットのトライは実習が目玉ですが、座学も魅力的です。座学のなかでトライ卒業生が担当してくれている「自己管理、ストレスとその対応・リフレッシュ」というプログラムがあります。今回は3人の卒業生が来てくれました。「皆さんのストレスは何ですか？」とメンバーへ聞き、自身の経験と引き合わせながらざっくばらんにみんなで話していました。卒業生はうまくいくことばかりではなく悩みながら働き続けていることを話してくれ、メンバーも卒業生に質問をしていました。「働いている人は特別な人かと思っていたらそうでもなかった」「働いている人も悩んでいることが分かってほっとした」「勇気をもらった」などの感想が聞かれ、背中を押してもらったようにみえました。プログラムが終わった後の卒業生は清々しい顔をしているようにみえました。

(YMSN 金山正恵)

ジョブコーチ



最近、支援をしていて感じることは、仕事自体のサポートは全体的には減ってきましたが、その代わりに職場での人との関わり方が主になってきていることです。

仕事内容も事務職の求人が増えてきているなか、PCにたけている方も多く、企業の方から説明を受け、仕事をスムーズに出来る方が増えています。作業系でもその方に合わせた作業内容を検討して下さる企業が増えているので、ポイントを押さえた支援で作業が出来るようになる方が多いです。

一方で、仕事ができるがために、確認せずに勝手な判断で仕事を進めてミスする方、職場の人のちょっとした一言を過剰に受け止めて落ち込んだり、時には怒りを感じて職場へ行きづらくなったりしている方が目立つように思います。

お互いに一言、声かけや確認が出来れば勘違いや誤解が減るのかなと… 仕事が忙しい中、言葉が簡略化されてしまうことも多く、それでいい関係の方もいれば、それでは足りずに勘違いしてしまう方もいます。障がいがある無しに関わらず、相手に対して少しの思いやりを持つことで、気持ちよく働ける環境になるのではないかと思います。私も日々声かけをしています。

(YMSN 吉成 広美)

中高生の放課後支援 Irodori



バザー

- ・11月11日、田園調布学園大学の学園祭に出店してきました。
- ・この日のために作ったコースターやクリップを買ってもらえた時は、とても嬉しかったです。
- ・この日の売り上げで、食べ放題に行けることになりました。楽しみ(*'▽')



かながわプレジョブスクール

プレジョブが始まって4カ月が経ちました。先月から始まったキャリアデザインプログラムでは、大学や専門学校、職業訓練校への見学をしました。その他にも農業ボランティアやCMを制作などたくさんの体験をしています。(YMSN 渡部恵梨子)

【農業ボランティア】

主に農園の草狩りをやっています。

1時間半やると「足腰が痛い」、「蚊や虫がイヤ」と言いつつ、いろいろ大変な思いをしながら続けています。それでも、食べ物のありがたみを感じられることや、自然にふれあうことで、スッキリ出来ていると思って頑張っています。



【CM作り】

プレジョブスクールCMを作りました。

プレジョブの良さを考えるところから始め、Aチームは「ゆるさ」、Bチームは「たくさんのプログラムができる」とテーマを決め、撮影・編集作業を進めました。初めて動画編集するメンバーが多い中、3日間で完成させることが出来ました。それぞれ個性的な作品になったと思います。Facebookで見られるので、よかったら「いいね」押ししてもらえると嬉しいです。



定例研修会

・精神保健福祉研修会

- ・日程 毎月 第2金曜日(全10回)
- ・時間 pm. 7:00～8:30(11月はお休み)
- ・場所 YMSN研修室 (上大岡駅 徒歩5分)
- ・内容 基礎を学ぶ/基本を見直そう(詳細はHPで)
- ・ホームページをご覧ください <http://forest-1.com/ymsn/>

当事者のためのグループ活動

・就労フォローアップミーティング

- ・年1回、OB会の開催

・就労者SST

- ・日程 毎月 第1土曜日(全10回) 時間 pm. 1:00～2:30
- ・場所 YMSN研修室

・当事者グループ活動

- ・めんちゃれ 他 場所 YMSN研修室

SST南関東支部研修会

・定例研修会

- ・日程 毎月 第3木曜日(全10回)
- ・時間 pm. 7:00～9:00(8月はお休み)
- ・場所 横浜市総合保健医療センター (新横浜駅 徒歩15分)
- ・内容 全体会/講義 分科会/①究める「基本訓練モデル」②究める「問題解決技能訓練」③究める「ステップバイステップ」(詳細はHPで)

・初級10時間研修会

- ・① 2月17-18日(土・日) 調布市開催
- ・② 4月29-30日(土・日) ウィング横浜開催
- ・費用 各18000円

・中級研修会/個別支援のSST

- ・1月28日(日) さいたま市開催

- ・各々、詳細はホームページにて <http://news.jasst.net/minamikanto>

正会員：5,000円(個人) 賛助会員：12,000円(団体)
(正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607
横浜メンタルサービスネットワーク

会費を銀行・コンビニATMやネットから振り込む場合の入力方法をご案内します。

振り込み料は432円かかりますが、郵便局に行かなくても良いので楽は楽です。

(金融機関名) ゆうちょ銀行 (店名) O二九

(種別) 当座 (口座番号) 71607

(名義) ヨコハマメンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 14 No. 2
YMSN 第54号 2017年11月20日発行

年間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク
理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子
〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-12-3-204
TEL 045-841-2179
FAX 045-841-2189
<http://forest-1.com/ymsn/>
e-mail: ymsn@forest-1.com